

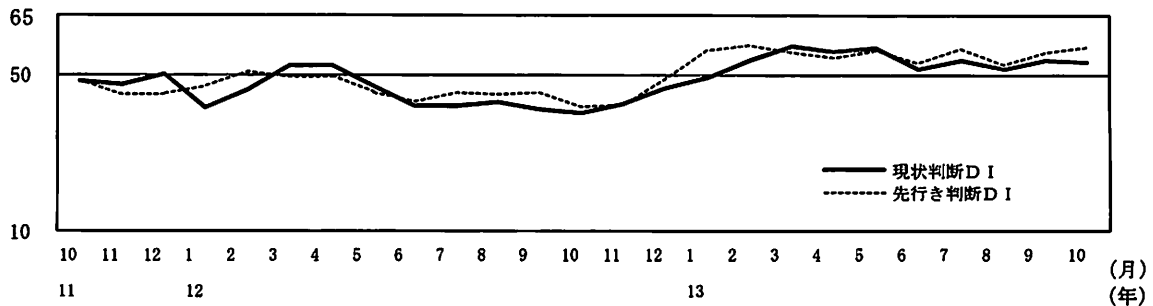
10. 九州

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	□	・国内旅行は、複数の台風の影響で航空機・バスツアーに多少の取り止めが出た。海外は、領土問題で昨年より大きく減少していた韓国がようやく前年並みとなった（旅行代理店）。	
		○	・季節外れの台風が過ぎ去ったことにより急激な気温低下が始まった。秋冬物の品ぞろえはピークを迎えており、今まで不調だった衣料品関係の売上が上昇してきた（スーパー）。	
		▲	・従来、10月は客足や売上が増える時期だが、台風の影響で売上が前年度より落ち、なかなか上がらない（高級レストラン）。	
	企業 動向 関連	□	・土木関連の建設業者が仕事を選別しながら契約している。九州からも東北に向かう業者もいて人集めに大変だ。新規社員の面談ばかりしている。自動車ディーラーに話を聞くと、ハイブリット車は継続して販売好調な様子である（その他サービス業 [物品リース]）。	
		○	・1、2か月前から半導体の製造装置の受注が急激に増えてきている。大きくバランスを欠いて仕事量が増えたため、人が足りず残業で対応しているが、コストの面で大変厳しい状況である（電気機械器具製造業）。	
		▲	・荷主からの値下げ要請があったり、工場や配送センターの集約が続いているので悪くなっている（輸送業）。	
	雇用 関連	□	・年度中間の9月末は契約終了、新規契約・追加注文等活発な動きがある時期であるが、求人数が横ばい状態のままである（民間職業紹介機関）。	
		○	・消費税増税前の駆け込み需要による受注増により、大手住宅メーカーから事務系の派遣依頼が増加している（人材派遣会社）。	
	その他の特徴 コメント			○：円安で、海外生産から国内にシフトされたところがあり、受注的には増えつつある。しかし、国内産業の弱った体力では、生地や付属品などの生産スピードが需要に間に合わない。仕事が増えても残業時間の規制も厳しくて、注文を断るしかない（繊維工業）。 ○：おせちの販売予約が2～3割伸びている。価格帯も昨年の1万円台から2万円台上がっている（経営コンサルタント）。
	分野		判断	判断の理由
	先行き	家計 動向 関連	□	・冬場の灯油の小売価格は、昨年並みかやや高い価格が予想されており、昨年並みの販売量を予想している。灯油の小売価格が高騰すると他の暖房用品へのシフトが危惧される（その他専門店 [ガソリンスタンド]）。
			○	・新築住宅の受注は9月末をもって一段落した感がある。しかし、建売住宅やリフォーム工事に対する需要はまだ冷めてないようだ。冬の貸与で景気を持ち直し感が出てくれば、2月ごろまでは持ちこたえてくれる（住宅販売会社）。
企業 動向 関連		□	・賃貸オフィス物件の入居率が横ばいに推移している（不動産業）。	
		○	・今年中の納期で見積を提出している件数や販売金額ともに前年比10%で程度伸びている。商業施設に入れる家具などの需要確実に増えている（家具製造業）。	
雇用 関連		○	・年末商戦に加え、消費税増税前の駆け込み需要も見込まれるため、求人需要が高まると考えられる（求人情報誌製作会社）。	
その他の特徴 コメント			○：消費税増税前の駆け込み需要がこれからみられる。また、天気長期予報では寒い冬の予想が出ており、防寒商品への需要増が期待できる（その他小売 [ショッピングセンター]）。 ▲：円安が荷主の輸入コストを押し上げる要因になっている。今、厳しい状態が続いており、円高になるまではこの状態が続く（輸送業）。	

(D I)

図表29 現状・先行き判断D Iの推移

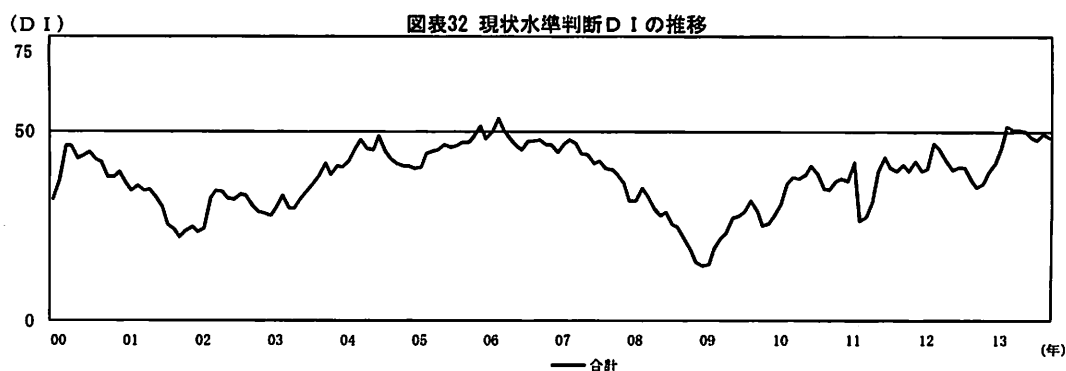


(参考 1) 景気の現状水準判断 D I

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった (注)。

図表 31 景気の現状水準判断 D I

(D I)	年	2013					
	月	5	6	7	8	9	10
合計		50.3	50.0	48.5	47.8	49.3	48.5
家計動向関連		48.5	48.8	46.3	45.6	46.4	45.3
小売関連		45.8	48.0	44.4	44.2	45.2	43.8
飲食関連		47.8	43.5	42.4	42.6	38.5	39.5
サービス関連		52.3	49.9	49.0	47.2	47.2	48.0
住宅関連		58.0	57.2	55.6	53.7	61.9	53.7
企業動向関連		51.4	49.6	50.6	49.6	52.6	52.1
製造業		50.8	47.0	49.6	47.1	49.6	50.3
非製造業		52.0	52.3	51.9	51.7	55.1	53.7
雇用関連		59.3	58.7	57.7	58.2	60.7	61.4



図表 33 景気の現状水準判断 D I (各分野計)

(D I)	年	2013					
	月	5	6	7	8	9	10
全国		50.3	50.0	48.5	47.8	49.3	48.5
北海道		50.4	55.0	54.9	54.3	53.3	53.3
東北		49.0	48.5	45.0	47.6	46.4	45.1
関東		48.6	47.7	45.7	44.6	46.6	46.5
北関東		45.9	46.3	42.6	41.8	42.2	43.7
南関東		50.3	48.6	47.8	46.3	49.3	48.1
東海		49.8	49.8	49.1	49.1	50.0	48.8
北陸		53.6	52.3	48.2	48.5	50.5	50.3
近畿		54.3	51.7	50.1	47.3	51.1	48.8
中国		50.2	53.5	52.1	49.6	51.0	51.3
四国		45.1	47.3	47.7	44.4	44.7	46.4
九州		51.8	49.0	49.0	48.6	50.5	50.4
沖縄		50.0	51.8	50.0	57.9	62.5	53.7

(注) 景気の現状をとらえるには、景気の方性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

(参考2) 全国の動向D Iの季節調整値

図表34 現状判断D I (季節調整値)

(D I)	年月	2013 5	6	7	8	9	10
現状 (季節調整値)		53.7	51.7	50.6	50.9	54.3	55.0

(D I) 図表35 現状判断D I (季節調整値)の推移



図表36 先行き判断D I (季節調整値)

(D I)	年月	2013 5	6	7	8	9	10
先行き (季節調整値)		52.8	51.5	53.0	52.5	56.2	57.8

(D I) 図表37 先行き判断D I (季節調整値)の推移



図表38 現状水準判断D I (季節調整値)

(D I)	年月	2013 5	6	7	8	9	10
水準 (季節調整値)		48.9	48.3	46.9	47.3	50.6	50.6

(D I) 図表39 現状水準判断D I (季節調整値)の推移



図表 40 現状判断、先行き判断、現状水準判断の季節指数

年月	2013 5	6	7	8	9	10
現状	2.0	1.3	1.7	0.3	-1.5	-3.2
先行き	3.4	2.1	0.6	-1.3	-2.0	-3.3
水準	1.4	1.7	1.6	0.5	-1.3	-2.1

(注) 季節調整値は原数値から季節指数を減算した値。

図表 41 季節調整値のスペック概要一覧（データ期間：2001年8月～2013年7月）

項目	現状判断D I	先行き判断D I	現状水準判断D I
曜日調整	なし	LPYEAR	なし
異常値	TC2008. Dec TC2011. Mar	TC2008. Dec TC2011. Mar	自動検出 (TC2011. Mar)
ARIMAモデル	(3 1 1) (0 1 1)	(0 1 1) (0 1 1)	(0 1 1) (0 1 1)
X11パートの設定			
①モデルのタイプ	加法型	加法型	加法型
②移動平均項数	seasonalma=MSR	seasonalma=MSR	seasonalma=MSR
③ヘンダーソン 移動平均項数	13項	9項	13項
④特異項の管理限界	下限 1.5 σ 上限 2.5 σ	下限 1.5 σ 上限 2.5 σ	下限 1.5 σ 上限 2.5 σ
その他	Maxlead=4 の MARP が最少	Maxlead=4 の MARP が最少	Maxlead=4 の MARP が最少